

資料整備と教育・研究支援

島根大学における 学術雑誌の利用環境整備

【実情報告】

島根大学附属図書館（本館）
 企画・整備グループ 資料整備担当
 矢田貴史

第50回中国四国地区大学図書館研究集会
平成21年10月22日

島根大学附属図書館の紹介

- 利用対象者（医学分館含む）
学生：6,300名 教員：2,400名、学外登録者：600名
- 年間入館者数
本館（松江）：843,100人
医学分館（出雲）：175,500人
- 貸出冊数
本館：46,800冊、医学分館：15,100冊
- 蔵書数（医学分館含む）
・図書：87万冊
・雑誌（継続・和洋計）：1,260誌
・電子ジャーナル：約7,000タイトル（全学共通分）
- 職員
常勤18（うち本館12）、非常勤7（本館）
- 組織
学術国際部 図書情報課
・企画・整備グループ
・情報サービスグループ
・医学情報グループ（医学分館）



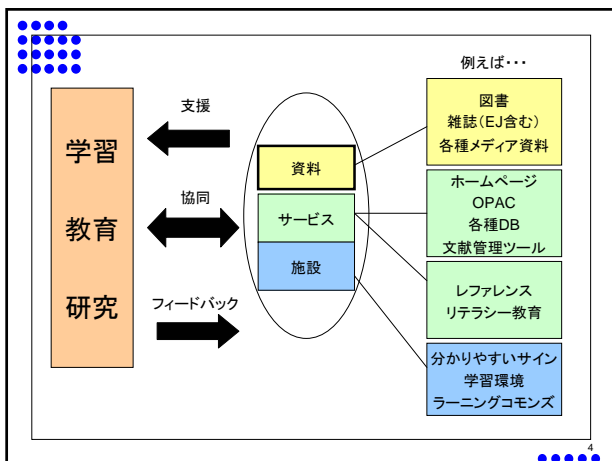

（データは2008年）

島根大学附属図書館の理念

1. 学習支援のための資料提供と環境整備
2. 教育支援のための資料提供とサービス
3. 研究支援のための学術情報整備
4. 地域の学術拠点としての連携協力
5. 学術コミュニケーションへの貢献
6. 特色ある大学図書館を目指して

大学図書館の資料整備のあり方

- まず資料ありきではない。
- どういうニーズがあるか。
- 資料のみではなく、利用環境や支援体制をセットにして考える。
- 資料を購入して終わりではない。



雑誌の利用環境整備

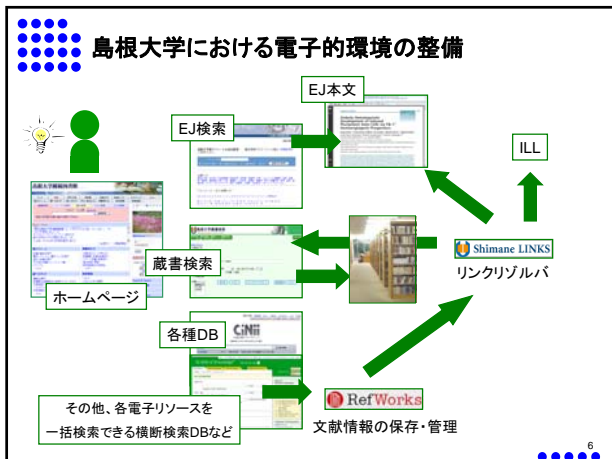
- 電子化の進展
- 媒体に関わらず、利用者がスムーズに利用できる環境を

そのためには・・・

- 情報ポータルとしてのホームページ
- OPACや各種DBなどの検索ツール
- 各種リソースやサービス間を結ぶナビゲート機能（リンクリゾルバなど）
- 入手した情報を活用できるツール（文献管理ツールなど）

一方で・・・来館者へのフォロー

- サービス、レファレンスの窓口
- 利用者に迷わせない、サイン表示
- 図書館の提供する情報、サービスを使いこなすための講習会など



- ### 雑誌の選定・収集方針（本館）
- **図書館備付雑誌の選定**
 - ・購入雑誌(※)
 - ・広く学生が利用できる雑誌を、分野のバランスを考慮して選定
 - ・経費は学生用図書費の一部として確保
 - (※)・学術雑誌: 各分野の基本的な学術誌、学会誌、総合誌
 - ・ブラウジング雑誌: ニュース・時事系の週刊・月刊誌、各分野の趣味的な雑誌
 - ・寄贈雑誌
 - ・おおまかな方針はあるが、あらゆる内容・形態のものが一方的に送られてくるため判断が難しいケースが多い。
 - **購入雑誌の選定体制**
 - ・学術雑誌のタイトルは、他大学の購読状況や利用状況を参考に、購入案を作成し附属図書館運営委員会での承認。数年に1度見直し。
 - ・ブラウジングの雑誌は、利用者アンケートや利用状況を参考に毎年見直し
- 7

- ### 雑誌の廃棄基準
- 特に基準は定めていないがバックナンバーの保存スペースを確保するため、次に該当するものは定期的に廃棄している。
- ・所蔵冊数が概ね5冊以下のもの(変遷誌は除く)
 - ・分館でも所蔵しているもの
 - ・広報誌等、内容が学術的ではないもの
 - ・欠号が非常に多いもの
 - ・本学に関連分野のないもの
- その他、
- ・寄贈雑誌については、電子版にアクセスできるもの(Ciniiや機関のHP等)
 - ・購入雑誌については、バックファイルを購入しているもの
- 8

- ### 紀要類の整備①
- ・大学刊行の紀要類、受入の判断が難しい
 - ・一方で開架・書庫ともに狭隘化がすすみ、極限状態。最近のものは、Ciniiで電子化されているものは受入していない
 - ・それでも、受入できない紀要がどんどんたまる...
 - ・Ciniiで無料公開されている紀要は廃棄
 - 1、Ciniiから公開データを取得
 - 2、OPACの所蔵データとつき合わせ
 - 3、無料公開分の受入データの削除、廃棄
 - 4、OPACからCiniiへのリンクを付加・更新
- ※ 発行機関HPやリポジトリに搭載されているもの
URIの安定性や、網羅性(欠号の多さ)、ブラウザのしにくさ(チェック作業が煩雑)から断念
- 9

紀要類の整備②

- ・ OPACからのリンク画面

紀要に限らず、電子化が進んだこと、それに伴う雑誌の受入中止・廃棄などの作業により、開架の雑誌も古いものが多くなり、書架の“鮮度”の低下

分かりやすい配架と、冊子・電子間のナビゲーションのいっそうの円滑化が今後の課題

10

雑誌の無料提供会

- ・ ブラウジングコーナーにある一般教養誌や趣味的な雑誌のうち、**保存年限を過ぎたものを利用者に無料提供**

1年、3年、5年、永久(廃棄しない)

- ・ 目的
 - ・ 再利用
 - ・ ゴミの減量

毎年1回
数量は1000冊弱
6~8割なくなる

11

その他の取り組み

- 1、選書会
- 2、選書ツアー
- 3、リユース図書制度、リユース市
- 4、本の展示(ブック★コンパス)
- 5、その他の広報
- 6、リテラシーテキスト/オンデマンド講習会
- 7、デジタル・アーカイブ

12

1、選書会

大規模な見計らい、主に図書館職員による選書
書店数社 計1000冊程度
年数回 各2日程度
選書WG(担当職員に学部学科単位で割振)

- **メリット**
ブラウジングできる
新刊書のみで重複が少ない
職員が参加しやすい
選書もある程度信頼できる
- **課題**
教員の呼び込み
学生の参加どうするか？

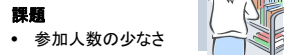


13

2、選書ツアー

- 学生の選書参加
- 毎年5~10名程度
- 学生組織からの寄付をもとに
- 近郊の大型書店で実施

- メリット**
- ブラウジングできる
 - 学生参加による図書館への興味
 - 学生の興味を知ることができる
 - 貸出回数多い



- 課題**
- 参加人数の少なさ
 - 学部の偏り
 - 選書内容
 - フォローアップ(追跡調査)



14

3、リユース図書制度と蔵書リユース市

- **リユース図書制度**
研究室からの返却図書など、重複本の発生
書庫狭小化
廃棄する前に、学内で再利用できないか
→「リユース図書」制度

- **蔵書リユース市(今年で5回目)**
学内でリユースできなかった図書
廃棄する前に再利用できないか
→一般市民にも提供
生協に販売委託、学生主体



15

4-1、ブック★コンパス 本の展示コーナー ①

毎回テーマを変え、2ヶ月程度で模様替え
カウンター近くの一審目につく場所に

- メリット**
- 貸出が多い
 - 学生の興味分かる
 - 広報機能
 - 職員のモチベーションUp☆

- 課題**
- どれだけ手間を省けるか
 - 学生参加型の企画に
 - 教員とコラボ



16

4-2、ブック★コンパス 本の展示コーナー ②

- 1、文学賞(受賞作品)を読む
- 2、人は旅をする
—マルコ・ポーロから中田ヒデまで
- 3、アカデミック・スキルズ
—読めば「トク」する論文・レポート作成術
- 4、学生選書
貸出の多いものをランキングで紹介
- 5、裁判員制度始まる！
- 6、ヤリタイコトの見つけ方
—今どきの就職事情！
- 7、学生選書ツアー2009
—書店で見つけた...いま読みたい、読んでもらいたいこの1冊



17



5、広報

PR月刊誌 LiMeの創刊

図書館職員の手作り『エコしおり』

- LiMe: Library Message
- 年1~2回発行の広報誌はあるが、もっと気軽に読んでほしい
- 職員による新着図書紹介や、学生による書評の寄稿、課長のコラムも。

- 不用なカタログや図書の帯などを使ったしおり
- 自動貸出機の横などに設置
- 思った以上の人気
- 広報に活かせないか、検討中



18



6、リテラシーテキスト、オンデマンド講習会

「学術情報リテラシー」

オンデマンド講習会

- コンピュータの使い方から、ネットの利用マナー、図書館の提供する各種サービス、リソースの使い方を解説
- 毎年改訂、新入生全員に配る
- 教員に好評、授業での使用
- 授業を利用した講習会
- 参加者: 780名(2008年)



19



7、デジタルアーカイブ / Digital Archive

- 学内外の歴史的・学術的な貴重資料や地域史料をデジタル画像として、収集、蓄積・保存

→大学や地域社会における調査、研究、教育活動に利活用



20



終わりに

- 良質な資料環境を整え、利用者のニーズに応えるには、様々な視点から図書館のサービスを考える必要がある
- いかにも、教職員、学生、その他の関係者を巻き込むか
- 広報を含めた、関係者間のコミュニケーションの活性化

21



ご清聴ありがとうございました。



22